

中等教育研究開発室年報 第35号（2022年3月31日発行）別冊電子版  
2021年度 授業実践事例

国語科 高等学校第Ⅱ学年

「花山天皇の出家」を批評しよう

授業者 三根 直美

（教育研究大会 公開授業）

広島大学附属中・高等学校

## 高等学校 国語科 学習指導案

指導者 三根 直美

**日時** 2021年11月27日(土) 第2限(10:35~11:25)

**場所** 第4研修室

**学年・組** 高等学校Ⅱ年5組 42人(男子13人 女子29人)

**単元** 古典作品を解釈し、評価する

「雲林院の菩提講」「花山天皇の出家」『大鏡』「高等学校 古典 B 改訂版」(第一学習社)使用

- 目標**
1. 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。(〔知識及び技能〕(1)ウ)
  2. 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができる。(〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)ウ)
  3. 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとする。(〔学びに向かう力、人間性等〕)

### 指導計画 (全15時間)

第一次 「雲林院菩提講」の読解。発問による通常授業。(3時間)

第二次 「花山天皇の出家」の読解。本文プリント【資料①】を使い、～ごとに1回通読後、読み深める視点に沿って個人→ペアで問いを確認し、その後問いの発表を行い、解決できる問いだけ授業内で解決する。【板書 資料②】(6時間)

第三次 第1～3時 『花山天皇の出家』を売り込もう」というテーマで、

あなたは、出版社の編集委員です。「花山天皇の出家」を出版するかどうかを決める編集会議で、売り込むためのプレゼンをしてください。

というパフォーマンス課題を提示する。グループ(10グループ)でプレゼンの資料をパワーポイントで作成する。その際に 2 なぜこの順序・構成なのか。 3 なぜこの表現をするのか。 4 語られていないことは何か。に沿ってあげた問いも確認しながら、作業を進める。適宜、解釈に必要な背景知識は調べさせる。

第4～6時 発表する。グループのプレゼン時間は5分と指示。各グループの資料【資料③】は印刷して配布する。ループリック評価表【資料④】を配布し、相互評価をする。単元全体を踏まえてリフレクションシート【資料④】で自己評価をする。【本時は6時間のうち5時間目】

### 授業について

『大鏡』の「花山天皇の出家」は十四代の帝王本紀のうち、退位の状況のみが語られるかなり特異なものである。また陰陽師安倍晴明の登場も花山天皇が退位した後、誰に何を奏上しようとするのか、疑問が湧く箇所でもある。この段には、大宅世継の語りを通した、作者の明確な歴史認識が存在していることが推測される。「花山天皇の出家」はうら若い花山天皇の出家への逡巡、粟田殿の「そら泣き」「すかし」などなんとか出家させようとする演技力あふれた場面など内容的にも興味深い。作品を探究していくには文章構成や展開、表現の特色などに目を向けないとその奥深さには行き着かない。

本校国語科では、「問い」を学習の中心に据えて取り組んできたが、高次の問いを生み出すことやその解決においては課題が残る。また、学習指導要領(平成30年告示)「古典探究」でも「読むこと」において(1)「ウ 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価すること。」という深い学びが要求されている。古文の場合は特に、読んだだけではなかなか高次の問いが生まれにくい。おおまかな内

容はわかっても、読み深める視点がつかめていなかったり、背景知識の少なさが起因したりしていると考えられる。そこで今回『大鏡』を読むにあたり、読み深める視点を示し、生徒自身に問いを具体的に出させながら学習を進めていくことを構想した。挙げた視点は以下の通りである。

- 1 なぜこの発言や行動をとるのか。    2 なぜこの順序・構成なのか。  
 3 なぜこの表現をするのか。        4 語られていないことは何か。

視点1については、クラス全体で読解する際に解決していき、高次の問いである文章構成や展開、表現の特色、語られていないこと（視点2.3.4）については「『花山天皇の出家』を売り込もう」という課題をグループで探究していくことで解決していく授業構想をした。また評価については、ワークシートに問いを書きためていき、さらにペンの色を変えて後から考えた問いや他の生徒が挙げた問いを書き入れることで、後から見て個人内で問いが深化したかどうか、個人内で振り返って評価できる工夫をした。

## 題 目 「花山天皇の出家」を売り込もう

### 本時の目標

1. 文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。
2. 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができる。
3. グループで集めた材料を整理・検討し、積極的に作品の価値を売り込もうとしている。

### 本時の評価規準

1. 文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。（知識・技能）
2. 書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。（思考・判断・表現）
3. グループで集めた材料を整理・検討し、積極的に作品の価値を売り込もうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

### 本時の学習指導過程

学習内容	指導上の留意点	評価の観点と方法
〈導入〉 1 学習目標を確認する。  〈展開〉 2 1～3グループ目の発表。質疑応答をする。  <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">伝える</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">発信する</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 10px;">比較する</div> </div> 〈まとめ〉 3 本時の学習のまとめと次時の予告を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷したプレゼン資料とルーブリック評価表を配布しておく。</li> <li>・発表後、グループで相談して質問や意見を挙げさせる。質疑応答の上で課題として残ったら、板書しておく。ルーブリック評価表に記入させる。</li> <li>・本時のまとめをする。次回発表するグループの確認をする。ルーブリック評価表を回収する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。（発言・記述の確認）</li> <li>・書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。（発言・記述の確認）</li> <li>・積極的にグループで集めた材料を整理・検討し、作品の価値を売り込もうとしている。（発言・記述の確認）</li> </ul>
備考	パワーポイントを印刷したプレゼン資料、ルーブリック評価表	

資料① 花山天皇の出家

花山天皇

村上天皇の皇子。  
母は安子

□ 次の帝、花山院の天皇と申しき。冷泉院の第一の皇子なり。御母、贈皇后宮

冷泉天皇の女御。伊尹の娘。

懐子と申す。

九八四年

九八六年

永観二年八月二十八日、位につか<sup>せ</sup>給ふ。御年十七。寛和二年丙戌六月二十二日

京都市山科区

の夜、あさましく候ひしことは、人にも知ら<sup>せ</sup>給は<sup>は</sup>で、みそかに花山寺におはしま

して、御出家入道せ<sup>さ</sup>給へりしこそ、御年十九。世を保た<sup>せ</sup>給ふこと二年。そのち、

二十二年おはしましき。

1	なぜこの発言や行動をとるのか。	
2	なぜこの順序・構成なのか。	
3	なぜこの表現をするのか。	
4	語られていないことは何か。	

確認

□ あはれなることは、下りおはしましける夜は、藤壺の上の御厨の小戸より出でさせ

清涼殿の北側の后妃のための部屋

あらわではっ

きりしている

給ひけるに、有明の月のいみじく明かかりければ、「頭証にこそありけれ。いかがすべ

皇位継承の印

三種の神器

からむ。」と仰せられけるを、「さりとて、とまら<sup>せ</sup>給ふべきやう侍らず。神璽・宝剣

藤原道兼

わたり給ひぬるには。」と、粟田殿のさわがし<sup>し</sup>給ひけるは、まだ帝出でさせ

その一条天皇

おはしまさざりける先に、手づから取りて、春宮の御方にわたし<sup>せ</sup>給ひてければ、

帰り入ら<sup>せ</sup>給はむことは、あるまじくおぼして、しか<sup>し</sup>給ひ給ひけるとぞ。

1	なぜこの発言や行動をとるのか。	
2	なぜこの順序・構成なのか。	
3	なぜこの表現をするのか。	
4	語られていないことは何か。	

確認

三 さやげき影を、まばゆくおほしめしつるほどに、月の顔にむら雲のかかりて、少し

暗がりゆきければ、「わが出家は成就するなりけり。」と仰せられて、歩み出でさせ給

花山天皇の女御

ふほどに、弘徽殿の女御の御文の、日ごろ破り残して御身を放たず御覽しけるをおほ

しめし出でて、「しはし。」とて、取りに入りおほしましけるほどぞかし、粟田殿の、「い

かに、かくはおほしめしならほおほしましぬるぞ。ただ今過ぎば、おのづからさは

りも出で来なむ。」と、そら泣きし給ひけるは。

確認

1	なぜこの発言や行動をとるのか。	
2	なぜこの順序・構成なのか。	
3	なぜこの表現をするのか。	
4	語られていないことは何か。	

四 さて、土御門より東さまに率て出だし給ふに、清明が家の前を渡らせ給

へば、みづからの声にて、手をおびたく、はたはたと打ちて、「帝おりさせ給ふ

天空の異変

と見ゆるは。天変ありつるが、すでになりけりと見ゆるかな。参りて参らむ。車に

仕度

装束疾うせよ。」と言ふ声聞かせ給ひけむ、さりともあはれに願しめしけむかし。」か

陰陽師が使う

鬼神

つ、式神一人内裏に参れ。」と申しければ、目には見えぬもの、戸を押し開けて、御

後ろをや見渡らせ給ひけむ、「ただ今、これより過ぎさせおほしましめり。」といらへけ

土御門大路と

町口小路が交差する辺り

りとかや。その家、土御門町口なれば、御道なり。

確認

1	なぜこの発言や行動をとるのか。	
2	なぜこの順序・構成なのか。	
3	なぜこの表現をするのか。	
4	語られていないことは何か。	

〔五〕花山寺におはしまし着きて、御髪おろさ<sup>レ</sup>仕給ひてのちにぞ、粟田殿は、「まかり出で

粟田殿の父。

藤原兼家。この時右大臣

て、大臣にも、姿はら<sup>レ</sup>姿、いま一度見え、かくと案内申して、必ず<sup>レ</sup>参り侍らむ。」

と<sup>レ</sup>申し給ひければ、「我をば、はかる<sup>レ</sup>なりけり。」とてこそ、泣か<sup>レ</sup>仕給ひけれ。あはれ

に悲しきことなりな。日ころ、よく御弟子にて候はむと契りて、すかし<sup>レ</sup>申し給ひけむが

恐ろしさよ。

1	なぜこの発言や行動をとるのか。	
2	なぜこの順序・構成なのか。	
3	なぜこの表現をするのか。	
4	語られていないことは何か。	

確認

〔六〕

粟田殿の父、兼家

東三条殿は、もしさることやし給ふと、あやふさに、さるべくおとなしき人々、な

なんのだれそれ

にがしかがしといふいみじき源氏の武者たちをこそ、御送りに添へ<sup>レ</sup>られたりけれ。京の

鴨川の堤

ほどは隠れて、堤の辺よりぞうち出で<sup>レ</sup>参りける。寺などにては、もしおして人などや

無理に

なし<sup>レ</sup>参るとて、一尺ばかりの刀どもを抜きかけてぞ守り<sup>レ</sup>申しける。

約30.3cm

1	なぜこの発言や行動をとるのか。	
2	なぜこの順序・構成なのか。	
3	なぜこの表現をするのか。	
4	語られていないことは何か。	

確認

資料② 板書

984年 位につかせ給ふ。  
奥さんの情報×  
天皇として治められた  
世を保たせ給ふ  
驚きあきれましたこと  
あさましく候ひしことは  
人にも知らせ給はで  
みそかに 理由は？  
22年 出家

花山院 冷泉院の第一の皇子  
母 皇太宮天皇になることが  
年代の詳しさ？  
確約

「あはれなることは  
（天皇の職を退位なさった）  
下りおはしましける夜は  
（有明の月）明るい こっそり  
花山天皇 出家できない  
（今夜の出家を） 適當  
「いかか すべからむ」 逡巡  
栗田殿 せかし 焦り  
さわがし申し給ひける  
（出家を）  
「さりとして、とまらせ給ふべきやう  
侍らず」 しか  
手づからわたし奉り給ひてければ  
東宮（一条天皇） 三種の神器 策略

三月 雲  
わが出家は 詠嘆  
成就するなりけり  
天も味方している  
弘徽殿の女御の御文  
取りにいり  
栗田殿 出家するのに  
俗世間への執着を持つている  
「いかにかくはおぼしめしならせ  
おはしましぬるぞ。  
おのづからさはりも出でまうで  
来なむ」 出家の妨げ  
そら泣き（泣き落とし作戦）

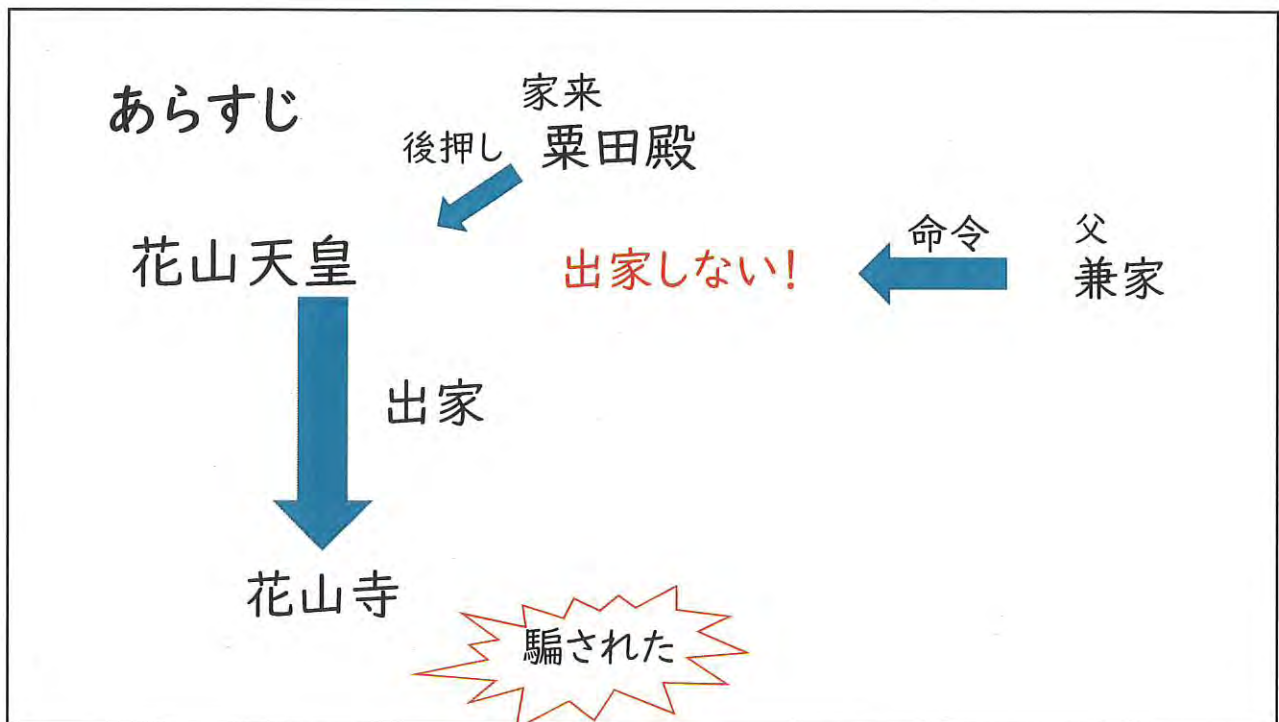
花山寺 式神  
「清明の家」 ここで突然出てくる？  
「帝おりさせ給ふと見ゆるは」  
天変←すでになりけり  
（退位は）  
栗田殿 率て出だしまゐらせ給ふ  
聞かせ給ひけむ  
花山天皇 ①自分で決めた出家と  
さりとも（そうは言っても）  
②清明に占われていたと知り  
③出家は天の意志・運命だと  
④しみじみ感慨深く  
あはれに思しめしけむかし  
世継（語り手）の推量  
同情

（花山寺）  
①御髪おろさせ給ひて 詠嘆  
③「我をば、はかるなりけり。」泣  
共に出家すると約束していたのに  
場の雰囲気からここで言うことではない

栗田殿 ②（花山寺から自邸へ）父 出家前の  
「まかり出でて、大臣にも、変わらぬ  
花山天皇に伴って出家する  
姿、いま一度見え、かくと案内申して、  
（花山寺へ）  
必ず参り侍らむ。」  
世継の感想  
（策略により出家させられた花山天皇は）  
あはれに悲しきこと  
（花山天皇に）御弟子にて候はむと契りて、  
すかし申し給ひけむが恐ろしさよ。  
人間的冷酷さ、天皇をだます

六 策略の首謀者  
東三条殿 兼家・栗田殿の父・右大臣  
（栗田殿が）花山天皇に伴っての出家 同情  
もしさることやし給ふ して  
臨機応変に対処できる  
おとなしき人々  
源氏の武者  
（京のほど）離れて 目立たぬよう  
（堤の辺）うち出で 栗田殿を出家させる  
おして人などやなし奉る  
（花山寺）刀 抜きかけて 阻止・脅し

# 花山天皇の出家





## ① 栗田殿の策略を暗示する伏線

「(出家を)とまらせ給ふ、べき(=当然)やう侍らず。

神璽・宝剣渡し給ひぬるには。」

「さわがし(=だめだし、一蹴)申し給ひける」

「手づから取りて、春宮の御方にわたし奉り給ひてければ」

⇒ここで出家させねば!

「おのづからさはり(=出家の障害)も出でまうで来なむ」

「そら泣き(手紙なんか持ってはいけない、と泣き落とし)」

⇒早く出家を成就させたい!

「我をば、はかるなりけり。」⇒伏線回収

## ② 兼家が主謀者であることの暗示

「もしさること(出家)やし給ふと、あやふさに」

=栗田殿が出家すること

「もしおして人などやなし奉るとて、(略)

刀どもを抜きかけてぞ守り申しける」

=栗田殿が出家させられること

⇒出家するのをとにかく心配

「おとなしき人々」=状況がどうなっても動けるように

「源氏の武者」=戦うため

⇒用意周到

### ③ 花山天皇の運命を暗示する伏線

「人にも知らせさせ給はで、みそかに花山寺におはしまして」

「顕証にこそありけれ」

⇒秘密の上での出家

「さり(=覚悟を決めた、納得した上での出家)とも

(晴明にも占われていたと知り)あはれに思しめしけむかし」

⇒こうなる運命だった⇒伏線回収

### 栗田殿の性格

栗田殿の性格垣間見発言

「劔璽・宝劔わたり給ひぬる」「そら泣き」「御弟子にて候はむ」→ **狡猾さ・用意周到さ**

作品を通して、栗田殿は非常に性格が悪いように思われる。

**(疑問) 本当に栗田殿はこんなに性格が悪いと言っていいのか?**

「日ごろ、よく御弟子にて候はむ」→ 花山天皇は、この言葉を受け容れていた。**二人の信頼**

花山天皇を出家させるよう仕向けた**黒幕は栗田殿の父**だった

「もしさることやし給ふと、あやふさに、」→ 栗田殿が花山天皇に同情するのを恐れていた

→ 父が栗田殿の性格を理解していたからこそその行動

資料④

【 】班に対するループリック評価表

Ⅱ年5組( )番 名前( )

	伝える内容について	表現について
A	本文の異なった箇所や他の資料を取り上げて、根拠を持って「花山天皇の出家」の魅力を人に伝えている。	わかりやすく効果的に表現している。
B	本文の箇所を何か所か取り上げて「花山天皇の出家」の魅力を人に伝えているが、根拠が薄い。	聞く者が興味を持つように表現されている。
C	本文の1か所を取り上げて「花山天皇の出家」の魅力を伝えているが、根拠が薄い。	視覚的に凝るあまり、内容が吟味された表現になっていない。

一言感想

リフレクションシート

古典作品を解釈し、評価する 「花山天皇の出家」(大鏡)

Ⅱ年5組( )番 名前( )

■自己評価 あてはまる項目に○

	よくできた	まあできた	あまりできなかった
①「花山天皇の出家」の構成や展開の仕方について理解を深めた。			
②書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈することができた。			
③文章の構成や展開、表現の特色について評価することができた。			
④グループ内でいろいろな材料を整理・検討し、プレゼン作成に取り組めた。			

■授業全体を振り返って

あなた個人について

できるようになったこと…

できなかったこと…

## 実践上の留意点

### 1. 授業説明

「花山天皇の出家」には語られていないことが多い。花山天皇が出家に至った動機や退位に関わった事実として政治的に孤立した状況であったこと、退位を巡る用意周到な準備と連携があったはずなのに、兼家、道兼以外の退位に関わった人々の動きは全く出ていない。さらに、花山天皇の人となりや出家後の生活、生き方も一切語られない。

語られていることは、うら若い花山天皇の逡巡や後悔、語り手世継の花山天皇への同情、栗田殿のあくどさ、安倍晴明の登場、兼家が首謀者であることなどである。なぜそれらが語られるのか、なぜ語られていないのか。その考察こそが、「花山天皇の出家」の深層に迫る読みとなるのではないか。

生徒は、「花山天皇の出家」を売り出す際に魅力を伝えようとする過程でなぜこの表現なのか、この構成なのか、なぜ語られていないのかという疑問にぶつかるだろう。その答えを導き出し、プレゼンに込めることができれば聴衆＝編集委員に「花山天皇の出家」の魅力は伝わっていくに違いない。答えを導いていないプレゼンは、編集委員から根拠の曖昧さをつかれることになる。歴史物語である『大鏡』は、史実を忠実に描いたものではない。安倍晴明の登場など多くの脚色が含まれる。それが何を意味するのか、テキストとの生徒の対話に期待して、授業構想をした。

実際の授業においては、生徒は楽しんでプレゼン資料を作成していた。日頃あまり積極的に意見を述べる雰囲気がないクラスであったが（実際には授業者がそうさせていたのであろう）様々な視点から、作品の魅力を伝えようとしていた。発表する態度も、工夫や練習をして効果的に伝えられていた。ただ惜しむらくは、プレゼンの中身である。本文の追究というよりも、周辺的な要素（陰陽師の扱われ方、霊的な要素、実際の本に編集した際の表紙など）に力を入れすぎていた。そのため、語られていない理由については追究している部分が少なかった。パワーポイントは、効果的に視覚に訴えるツールであるため、作品の深層を突き詰める前に効果を狙った方向に流れがちである。パフォーマンス課題としては面白く取り組めたが、古典を深く読み込むためにはどうであったのかという疑問は残った実践であった。

また、発表した後に生徒からも質疑・応答がなされたが、教員側でも補っていくことで深まりが見えた。発表の際に出てきた課題をまとめる時間が少ししかとれなかったことが反省である。安倍晴明の登場の意味合いについては板書でまとめたが、不十分であったのが悔やまれる。

### 2. 研究協議

今回、読み深める視点を4つあげて、2, 3, 4を中心にグループ学習で追究する指示をしたのだが、生徒の発表からそれが見て取れないという指摘をいただいた。確かに全体の授業の際には、個人で読み深める視点を確認し、メモも取っていたにもかかわらず、いざグループ学習に入るとすっかり意識から抜け落ち、あまり機能していなかった。本来はその疑問の追究がプレゼンの内容になっていくべきであった。

また、ルーブリック評価表についても、どのように生徒個人に返していくのかという質問をいただいた。グループで学習を進めた場合、それぞれの動き方が違う。その部分も含めて、リフレクションシートで個人の振り返りを入れることを示唆いただいた。実際にできたことには「書き手の意図が考えられるようになった」「他の班の発表からいろいろな視点から捉えられた」などが挙げられた。また、調べ学習の際、どんな資料をもとにしていくかも話題となった。インターネットの資料は、出所が不明確なものが多いので、参考文献を見たり、学術論文であったり、実際の文献に当たることを指示したが、見ていないグループもあり、参考にする資料を何にするのかが今後の課題であると感じられた。全授業数が15時間にも及び、時間の面でも課題が残る。新科目「古典探究」を見据えた授業であったが、実施方法のさらなる改善が必要である。